

日本大学芸術学部



校友会報

平成26年10月発行
2014年秋季号

93

C O N T E N T S

学部長インタビュー	ふくしま江古田会総会	12
学部長・名誉会長 野田 慶人	第14回福岡江古田会アート展	13
新 会長・副会長(平成26年度～平成28年度)	福岡江古田会総会／宮崎江古田会総会	14
新 役員(平成26年度～平成28年度)	山形江古田会総会	15
平成26年度校友会総会	宮城江古田会総会／佐賀江古田会総会	16
第8回日藝賞記念講演	熊本江古田会総会／青森江古田会総会	17
坂田栄一郎氏	北海道江古田会総会	18
松崎しげる氏	学科ニュース	19
皆さん今日は!	編集後記	23

THE ART FESTIVAL

日芸祭

江古田校舎

2014 11/1(土)2(日)3(月)
[平成26年]



校友会コーナー(お休み処)を設けております。どうぞ新しくなった江古田校舎にいらして、校友会コーナーにお立ち寄りください。

学部長インタビュー

綾部 四期目おめでとうございます。

野田 綾部さんも三期目おめでとうございます。又三年間芸術学部のために引いては日本大学のために、仲よくやりましょう。

綾部 校友を大事にしたいとおっしゃる野田学部長の下に校友会長を勤める私は、とてもラッキーです。それに野田学部長が財政面に強いところも。

野田 私は放送でもコマーシャルが専門ですから、どうしてもビジネスが伴います。財政面の勉強もやらざるを得ませんでした。

綾部 学部長が全国の支部総会にご一緒して下さいまして、「支部は大変そうだね、少し補助をしてあげたらどうだろう」とアドバイスして下さいのおかげで、支部活動に活気が出てきました。

野田 いや、全国の支部に出席してみて、支部のみなさんが手弁当で活動して下さいって様子に頭が下がるとともに、これは大変だなと感じました。

綾部 学部長の助言で、各支部

に五万円づつ助成することになりました。

野田 僕はもう少し多くてもいいんじゃないかと思いましたが…。

綾部 いえそれは現状のままです。現在、国内に15支部、海外三支部で計18の支部があります。十月に岡山、来年三月に石川に立上げ予定ですからすぐに20の支部になり、このままどんどん増えますと大変なことになります。

野田 (笑い)確かにそれは大変ですね。

綾部 このように支部活動が充実して大変活力があるのは、校友会にとっては願ってもないことです、しかし学部にとって何かメリットがあるのでしょうか。

野田 それはありますよ。校友推薦についても地方の方々に、こういう制度のあることをご理解いただけ、地方からの入学者も徐々に増えてきました。又、地方に就職を希望する学生たちの為にも力になってもらっています。現に就職の決まった学生もいます。

綾部 それは嬉しいことですね。全く知らない学生さんより芸術の後輩を取って下さるというのは。

野田 台湾や中国の支部では、若い人達が学科を越えた交流で、仕事を一緒にやっています。こんなケースも校友会の支部活動のおかげと言えるでしょうね。

綾部 国内ではどこの支部も高令化が悩みのようですが、学部長が出席して下さいというので放送学科の教え子たちが、特に現役アナウンサーの若い人などが中心になって準備して下さいるのは、校友会の将来のためにも、嬉しいし、とても頼もしいことです。

野田 私も教え子や在校生の父母の方々とお会いできるのが、支部参加のひとつの楽しみでもあります。

綾部 本当にお忙しい中を、文字通り駆けつけていただいて、先月の金曜日なんて学部長会議から九州佐賀まで、すべり込みでしたものね。

野田 皆勤賞と言われますが、支部の方々とはかれこれ十年

近いお付合になりますから、多少の無理をしてでも出席したくなります。

綾部 全国の校友の悲願でもあります。又昔のあの良き時代のように、大学生活の四年間を江古田校舎で、という通年化の計画は進んでいるのでしょうか。

野田 教職員みんな同じ気持ちです。重要なことだから三回は会議を重ねてから決めよう、と言っていました。もう二回目です。全員一致となり、決断が早や過ぎないかと驚いたくらいです。

綾部 日芸賞を受賞された方々のスピーチでも、芸術学部に入學したら大勢の魅力的な人々と出会えて、お互いに切磋琢磨してきたおかげで、今日の自分があるんだとよく言われ

ますね。

野田 これは他にはない芸術学部独特の文化や伝統、僕は「風土」と呼んでいます。これだけは大切に。して次に引継いで貰いたいと思っています。爆笑問題の二人だって日芸に入學しなければ出会わなかった訳ですからね。ただ、所沢校舎が全くなくなるという事ではありません。江古田だけでは敷地面積が足りません、所沢の方もこれから有効活用するために、検討してゆきます。

綾部 六年後には創立百周年ですね。

野田 次世代の学部長の仕事になりますが、着々と通年化計画を進めて、百周年を迎える頃にはこれらが完成し、しっかりと機能していくよう準備してゆ

くのが、私の勤めでもあります。

綾部 平成二十八年には教授陣が大量停年を迎えられると聞きました、学内の事でも大変でしょうが、どうかこれまで通り、校友会の方もよろしく願います。

野田 四期目の三年間には、日芸の良き風土を次の世代に橋渡ししなくてはなりません。この難局を学部長として、最大限の努力で乗りきる覚悟です。勿論校友会への協力はこれまで同様、できる限りのことをしてゆきます。

綾部 本日は夏休みの貴重な一日をありがとうございました。

まとめ 綾部 東洋子
写真 浅田 慧子
協力 原 直久



8月20日学部長室にて

新 会長・副会長(平成26年度～平成28年度)



会長 綾部 東洋子 (演劇40卒)

日本大学校友会・副会長・広報委員長
日本大学・評議委員
影絵グループ あけびの会主宰
2007年 緑綬褒章



副会長 田上 竣詞 (放送53卒)

1956 愛知県生まれ
1979 日本大学芸術学部放送学科卒
株式会社SPスタッフ入社
1985 株式会社DNA設立 代表取締役就任 現在に至る
日本大学芸術学部剛柔流空手道部OB
一般社団法人 日本イベント産業振興協会 正会員
協同組合 日本映像協会 正会員
趣味 読書、ゴルフ



副会長 豊島 紘武 (演劇40卒)

1966 演劇学科卒業
2002 日本テレビ放送網㈱定年退職
演劇学科常任幹事
2005 演劇学科常任幹事
2008 / 2011 副会長就任
所属 青森支部江古田会・演劇江古田会・殺陣同志会OB会



副会長 原 直久 (写真43卒)

1946 千葉県松戸市生
1969 日本大学芸術学部写真学科卒業
1972 日本大学芸術学部助手
文化庁派遣在外研修員としてフランス・ドイツで研修
1976-7 日本大学長期派遣研究員としてパリを中心に研究活動を行う
1984-5 日本大学芸術学部教授
1994- 日本写真芸術学会理事 日本写真学会会員
現在 日本映像学会会員 日本写真協会顧問
全日本写真連盟理事
新写真派協会(写真学科卒業生の会)会長

新 役 員(平成26年度～平成28年度)

役員

○名誉会長
野田 慶人(放49)

○顧問
佐々木照男(写29)
久保 進(演33)
八木 信忠(映34)
一ノ瀬邦夫(放36)

○会長
綾部東洋子(演40)

○副会長
豊島 紘武(演40)
原 直久(写43)
田上 竣詞(放53)

○監事
箭内 民生(文45)
渡辺 圭一(音51)

○相談役
三浦清之助(専24)

旧制

○常任幹事
櫻井理治夫(専25)

写真学科

○常任幹事
小泉 定弘(41)
高橋 則英(52)
田中 光子(53)
●西垣仁美(58)

○幹事
荻原 行子(32)
錦古里三四生(32)
南岡 秀男(46)
小野寺榮一(54)
鯉江 充(54)
丹羽 寿成(58)
鈴木 隆史(58)
大室 朋信(H8)
田中 里実(H16)
打林 俊(H18)

映画学科

○常任幹事
後藤日出磨(34)

阿部 靖夫(44)
浦井 孝行(45)
宮澤 誠一(46)
永井 寛(49)
●鳥山正晴(59)
○幹事
村田 定之(37)
中川 京子(53)
山本 英史(57)
宮川 真里(58)
廣瀬真奈実(60)
千葉 実(62)
齊藤 裕人(H1)
奥野 邦利(H4)
上倉 泉(H5)
藤森 美広(H13)

美術学科

○常任幹事
高松 豊(41)
●笹井祐子(H1)
小橋 克史(H1)
大橋 朋美(H21)
○幹事
根本 忠夫(38)
岩野 弘之(42)
濱口 泰己(43)
演島三子男(46)
勢ノ修(46)
有地 好登(46)
大槻 孝之(53)
福島 唯史(63)
南岡 純一(H1)
宮澤 真徳(H16)
設楽 俊(H18)

音楽学科

○常任幹事
田口 順一(33)
加藤 明(45)
西尾 敦子(H1)
●川上 央(H7)
三戸 勇気(H11)
○幹事

綿村 松輝(38)
松井 保雄(47)
今泉 久(50)
清水 泰博(54)
小川 哲夫(55)
田代 幸弘(56)
臼井 隆子(56)
田村 和夫(59)
大内 国晴(H2)
駒沢 大介(H11)

文芸学科

○常任幹事
生沼 剛(41)
河野 直樹(50)
大塚 実(53)
●青木敬士(H4)

○幹事
立石登美雄(27)
小沢 英輔(36)
戸田 勝男(43)
鈴木 邦和(46)
清水 正(46)
武富佐知子(50)
吉田 克也(51)
上田 薫(62)
谷村 順一(H9)
上坪 裕介(H16)

演劇学科

○常任幹事
服部 晃一(44)
向瀬 俊春(48)
●原 一平(48)
田代 利之(53)
○幹事
杉野 一美(38)
沼田 憲平(47)
柴田真由美(59)
橋本 芳孝(H1)
片岡佐知子(H9)
山口 英峰(H13)
木村光太郎(H13)
杉山 陽洋(H17)

森 友樹(H18)
阿部 健一(H24)

放送学科

○常任幹事
松井 篤(59)
安部 裕(H2)
山根 宏之(H5)
●茅原良平(H13)

○幹事
横山 隆治(34)
深井 徹(37)
山口 康義(40)
峰崎林二郎(43)
清水 邦彦(44)
間瀬 博美(45)
橋本 孝良(46)
小野 保視(46)
森田 雅行(50)
金 龍郎(59)
八巻 潔(60)

デザイン学科

○常任幹事
稲垣 進一(35)
荒井 弘美(50)
片岡 義和(52)
●木村政司(53)
長瀬 浩明(63)

○幹事
中島安貴輝(40)
桑原 淳司(49)
肥田不二夫(51)
佐藤 明彦(51)
佐藤 徹(H2)
大沼 敦(H3)
笠井 則幸(H7)
石田純之助(H8)
布目 幹人(H11)
谷口 聡子(H15)

●は、学内責任者
()卒業年度



平成26年度校友会総会

平成26年度日本大学芸術学部校友会総会が6月28日（土）午後5時より大ホールにおいて開催された。

総会は綾部会長の挨拶、続いて議長に小泉定弘氏（写41卒）、副議長に南岡秀男氏（写46卒）、書記に西尾敦子氏（音平成元卒）を選出、議事に入った。議長より会則10条により会は成立する旨の報告があった。

会務報告（川上常任幹事・総務）決算報告（宮澤常任幹事・財務）監査報告（箭内監事）予算案審議（宮澤常任幹事・財務）と進化した。

質疑応答では、建設的な意見がかわされた。

いずれも原案通り拍手を持って承認された。

推薦校友について。小橋幹事（美術平成元卒）より信包一彦氏の紹介がなされ会員の賛同を得て承認された。

江古田会支部設立について。今年

度は3つの江古田支部より設立の要望が出て、中国江古田会・岡山江古田会・石川江古田会といずれも承認された。石川江古田会よりは干場文夫氏（音50卒・事務局幹事）が出席され新幹線が来年3月開通しそれに向けて江古田会も設立することを熱く語られた。

役員改選について。綾部現会長の立候補があったが他にはいなかったの、出席者全員の拍手を頂き決定した。

引き続き学生食堂にて懇親会に入った。

野田慶人学部長、高橋浩本部事務局次長の挨拶、原一平教授（演48卒）の進行のもと八木信忠氏（顧問）の乾杯で始まった。亀井俊一氏の祝いの唄あり、学内執行部、課長職以上の皆さんにもご出席頂き、皆さんで楽しいひと時をすごした。佐々木照男校友会顧問の手締めで終了した。

平成26年度（2014年度）予算

収入之部		
勘定科目	摘 要	金額（円）
本部よりの会費	4,000円×4,000人＝	16,000,000
校友会終身会費	5,000円×300人＝	1,500,000
雑収入	総会懇親会会費・新年顔合わせ会費等	600,000
取入利息		40,000
合 計		18,140,000

支出之部		
勘定科目	摘 要	金額（円）
総 会 費	懇親会	300,000
諸会議費	常任幹事会・諸会議	200,000
消耗品費	ゴミ袋・洗剤・ガムテープ・雑巾 他	10,000
事務用品費	ファイル・ノート・プリンターインク・コピー用紙 他	30,000
通 信 費	会報発送（在校生・卒業生）総会・会費請求切手他	4,800,000
補 助 費	学科同窓会・幹事会・総会・芸術祭・卒業生を送る会・支部補助（16支部×5万円）支部出席祝儀	1,450,000
寄付分担金	本部校友会分担当金・日本大学創立130周年記念事業募金	400,000
印刷費	会報・総会・幹事会・終身会費請求書 他	2,900,000
人 件 費	事務局員給料・アルバイト代・人材派遣	4,300,000
法定福利費	労働保険・社会保険・雇用保険	700,000
旅 費・交通費	支部出張費・宿泊費・事務局員通勤定期代 他	1,770,000
租税公課	利子税	10,000
本部役員会費	年会費（本部副会長5万・常任委員2名各3万・委員3名各2万）	170,000
活動費	学生諸活動支援・バッジ・ストラップ	200,000
機械維持管理費	メンテナンス及びホームページ改良コピー機リース（88,410円）	400,000
雑 費	会報取材費・貸金庫代・スタジオマイデザイン料 他	200,000
特別会計	防災グッズ 購入・学部へ寄贈	300,000
減価償却費		
合 計		18,140,000



第8回日藝賞記念講演

「思い出は被写体の数だけある ―そのオーラに魅せられて―」 坂田栄一郎

6月10日(火) EB-1教室に於いて、13:00から14:30まで坂田栄一郎氏の第8回日藝賞受賞特別記念講演が開催された。

高橋則英写真学科主任の進行のもと、野田学部長の挨拶で始まった。

20代の過ごし方からスタートし現在に至るまでのエネルギーな経験談をお話して下さった。

父親はこの世界に入ることを反対していたが、母親の人生一度だけだから好きなことをしなさいと言われて

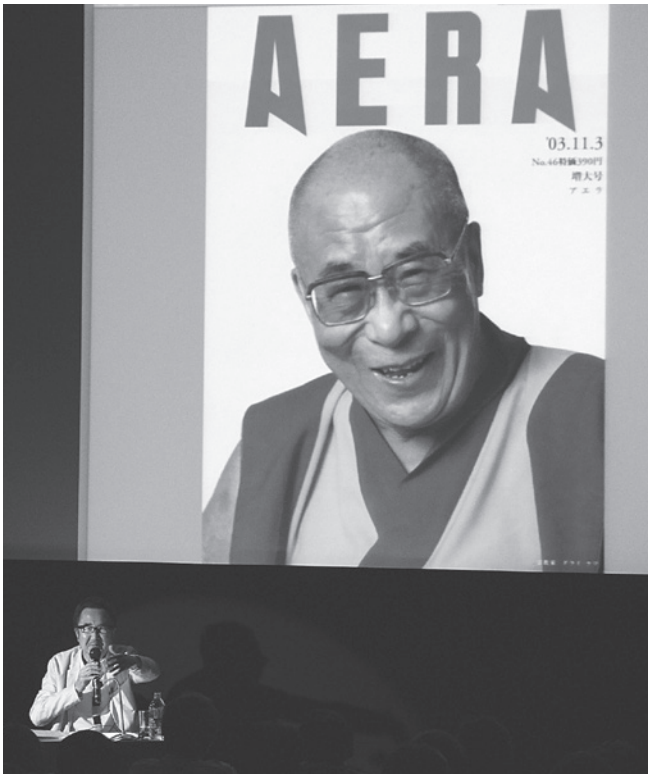
たことで日藝に入ることができた。ここでは他学科の学生との交流を持てたことが、その後の人生において役に立った。

1988年の「AERA」創刊時より現在も進行中で1000人以上の世界の超有名な表紙の撮影秘話。リチャードアヴェドンに師事し、ニューヨーク生活で自分のライフスタイルを持つことができた話。など撮影の話になると、言葉巧みに時にはユーモアを加えて熱い語らいで

あった。

英会話習得も自分流で沢山の人と会話し身につけた。お金がない、時間がないなどと言いつの前に、なんとか出来ることを考えたら良い。なにか坂田栄一郎ワールドに引きずりこまれた時間だった。

人生の土台を作り、自分の好きな道を突き進んでほしいと最後におっしゃっていた。その後、質疑応答となり時間も過ぎてしまいましたが、熱心に受け答えして頂きました。



「エネルギーなステージに魅せられて!!」 松崎しげる

6月24日(火)第8回日藝賞記念講演会が行われた。

1時より江古田校舎大ホールにて野田学部長の挨拶で始まり、ただちに松崎しげるライブとなった。

会場は、満席で立ち見が出るほどだった。

47年というキャリアは、私たちを一瞬にして、松崎ワールドへと引きこんでしまう。

心地よいアップテンポなトーク

と、人生経験豊かなジョークを交えながら一気に10曲歌ってくれた。

何よりもあの歌唱力とエネルギーな歌声は、会場を圧倒させた。

ステージでは、自分がトランス状態になると話していた言葉が印象的だった。

最後は、やはり“愛のメモリー”で締めくくってくれた。

歌の後は、短い時間だったが、文芸学科学生4人との質疑応答がありウ

イットに富んだトークで会場をにぎわしてくれた。

松崎氏は、会場の後輩たちに、今後は若い人たちと共に音楽を作りたいとエールを送り満場の拍子に送られて会場を後にした。

松崎さんの熱いメッセージは確かに後輩たちに届いたと思う。

ありがとうございました。



皆さん今日は！

●高橋貞二(旧制19年度卒)

日本糖尿病協会傘下において、長年医学部の先生方と一緒に頑張っています。目下90才台。100才に向かって元気に頑張っています。

●栗田直次郎(旧制22年度卒)

昭和2年出生。日大芸術科写真学科卒、昭和25年2月朝日新聞東京本社編集局写真部入社。北海道支社報道部写真係を経て、写真関係に終止。

●新井瀧緒(写真学科28年度卒)

報知新聞社を退職以来23年間、埼玉読売写真クラブの会長として頑張っています。会員は300名。その他大東文化大学の講師、写真塾読売文化センター講師もやっています。撮影は昨年から日本全国の港町を対象にとび廻っています。今年いっぱい仕上げる予定ですが思うように行くかどうか苦労しています。歳には勝てない部分もありますので……。

●阿野汎邦(写真学科29年度卒)

新聞社(中国新聞)を退職して20年。写真教室で指導しながら撮りためた写真展、厳島神社・ヒロシマ・古里の神楽の3部作を「遙かなる道」と題して開催しました。(2014年4月25日～6月23日)

●本多勝美(写真学科31年度卒)

卒業後50余を経ましたが、幸い元気に傘寿を迎えました。いまだ銀塩に執着していますが、デジタルカメラも駆使して楽しんでいます。役員方々のご健康をお祈り致します。

●半田也寸志(写真学科52年度卒)

写真集IRON STILLsが第45回ボスターカタログ展で文部科学大臣賞と講談社第45回出版文化賞の写真賞その他を受賞しました。

●玉井隆昭(写真学科55年度卒)

校友会報は毎号楽しみにしており

平成26年度総会返信の近況報告を掲載いたしました。無断で掲載させて頂きましたことお詫びいたします。(順不同)()内は学科卒業年度です。

ます。卒業直後に拝読していた時代は年の離れた大人たちの高いところからのコメントにピンとこない事もありました。が、卒業して40年弱。今その当時の会報を読み返すことが出来るなら、うなずく事ばかりではないかと思います。仕事柄良く江古田駅界隈に参りますが、今でも当時の雰囲気は変わらないので、私は不調に成ると江古田駅近くまで行き自分だけのタイムスリップをして元気をもらっています。いつまでも学生気分でいたいおじいさんOBより。

●岡良和(映画学科27年度卒)

終戦の翌年、旧専に入学、新学と6年間江古田通い就学時代からの新理研映画、卒業後からの宝塚映画を去って57年、展示場、イベント会場、TV、舞台等でお世話になっているバルーンを業としています。現役の85才です。

●田邊雅章(映画学科34年度卒)

ライフワーク「爆心地復元事業」記録映画5作品を完成。現在総仕上げ作品(被爆70年事業、国連NPT公式上映)製作中。政府非核特使として中東およびドイツの主要都市訪問講演。映画作りひと筋の人生に満足している。76才。未だ元気。

●山下文雄(映画学科36年度卒)

前略、当年78才の昭和37年卒業の現役映像マンです。元地方TVマンの経験を生かして現在もマイビデオをPdで作り、頭の体操と思って楽しんでいます。今般の総会、懇親会の大盛況を祈念致しております。YAMASHITA拝

●石塚喜煦子(映画学科37年度卒)

「校友たちの活躍」同期の山崎裕が河瀬直美監督の「二つ目の窓」で撮影監督を。残念にもカンヌ映画祭でバ

ルムドール賞とれず残念……。こう言う情報をのせないのかなー。

●竹田良雄(映画学科48年度卒)

現在、埼玉県の地方デザイン団体(公社)埼玉デザイン協議会の執行理事として、中小企業、障害者施設、農業経営者に対してデザイン開発支援をしており日々埼玉県内ををび回っております。昨年、川口市skip cityで開かれた国際映画祭で元学部長の八木先生とお会いしました。当協議会もskip city内に事務所を構えています。

●上野和己(美術学科30年度卒)

同級生8名にて「七江会展」を毎年開催。今年度で13回になりますが、残念ながら4名死亡。現在4名にて開催しています。私事で申し訳ありません。昨年5月春の叙勲にて受章。校友会誌に掲載いただき御礼申し上げます。(旭日双光章)

●工藤周一(美術学科35年度卒)

今年3月末日に、久々に3人展(油絵)を開催しました。後日、秋田江古田会の新聞に記載する予定です。

●小阿瀬昭(美術学科42年度卒)

美術学科(当時はこの中のデザイン科)2年の時、東京オリンピックがあり今年で50年。感慨深いものがあります。数年前「ぶらり途中下車の旅」風に江古田駅に降り校舎を見て、そこから12～3分程の住んでいたわかば荘(改築とはいえ)がまだ建っていた事に感激。数日後、当時の仲間3人で駅近くで一杯やりました。

●小西甫正(美術学科44年度卒)

美術学科のヴィジュアルコミュニケーションコースを昭和45年3月に卒業しました。広告会社では、クリエイティブとプロモーションの仕事をしていました。プロモーションでは

主に、開発・事業系の仕事でリタイアした今も茨城県で農業公園をつくる仕事を、瀬戸内海の離島では、島おこしの仕事をしています。

●石川謙二(美術学科53年度卒)

新しい学食で、デザイン学科の先生や生徒さんたちとデザイントークをしました。佐野元春、遊佐未森などのジャケットデザインなどしています。

●大沼敦(美術学科平成3年度卒)

就職して以来ずっと関西在住でしたが、一昨年前より20年ぶりに東京に戻ってきました。現在はフリーランスのプロダクトデザイナーとして活動しております。今年の4月から講師として所沢校舎に通っております。後輩達にデザインの考え、技術を伝えています。引き続きよろしくお願ひします。

●安東保(音楽学科28年度卒)

64年前の江古田時代、プールがあり授業で泳ぎました。まだ外食も米飯切符が必要でなつかしい思い出です。今、社会福祉の手伝いで男声合唱の指導、編曲を続けてます。日芸時代のおかげです。ありがとうございます。

●木村喜代子(音楽学科30年度卒)

今年の7月13日で満81才となります。お陰様で病気1つせず元気な毎日を送って居ります。家事一斉を1人でやり、友人と音楽会、山歩きetc楽しんで居ります。私達を通ったときは、天地の差で校舎の素晴らしくなった事、本当にうらやましいです。ご発展を祈ります。

●土濃塚仁昭(音楽学科45年度卒)

国技館5000人の第九コンサートの歌う事務局にて全国、海外12ヶ国との音楽を通じての絆を大切に平和を願っている一人です。日大一高を退職し第2の人生を歩んでおります。芸術学部ピアノ課を卒業したことに誇

りを持って前進しています。

●河野美帆子(音楽学科平成11年度卒)

静岡県警と静岡県、静岡県交通安全対策協議会の主催した「自発光式反射材デザインコンクール」で私の作品が最優秀賞に選ばれ、表彰を受け製品化されました。とても嬉しく思いました。日芸時代に培った感受性は、今も私の中で生きています。

●竹田江梨子(音楽学科平成18年度卒)

2013年11月に長崎五島列島にてピアノ演奏しました。都心では味わえない体験ができました。

●原田嘉行(文芸学科40年度卒)

芸術学部卒業生が講師を務める映画・文芸関係の受講を楽しんでいます。脚本家の石森史郎さん、元松竹プロデューサー升本喜年さんなどから学生時代のエピソードを拝聴し、やはり江古田で学んだものが、その後のご活躍の源となっていると感じました。

●北門喬(文芸学科44年度卒)

遅れて送付しました。大変失礼を致しました。石川県で「江古田会」が設立されるとのこと大変喜んでます。総会で決定されると考えますが支部長という役職に就くと思えます。今後共宜しくお願ひ申し上げます。

●山崎厚夫(文芸学科51年度卒)

年に1回ほど、1年生だった時のゼミのメンバーが集まり同窓会をやっております。1973年の文芸学科創作コース、宮原ゼミです。今年は全員が還暦超えとなります。めでたし。

●石川千穂子(文芸学科52年度卒)

PHP研究所より、「だれがアケル？ 恐怖のトビラ」を刊行しました。現在、学研の「クロスワード1、2年生」三オブックスの「スーパー便利帳」などのライティングをしています。

●齋藤修(文芸学科55年度卒)

ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会の専務理事として、通知物やパンフレットなどの「わかりやすさ」の基準を開発し、普及に務めています。今は一昨年に発売し多くの印刷物や表示物に使用されている高齢者にも読みやすい文字UCDAフォント「みんなの文字」の明朝体を開発中です。

●松枝武彦(演劇学科34年度卒)

思いおこせば昭和31年大雪に見舞われた。入学試験日の当日から早や55年が過ぎ入学当初の校舎はすっかり姿をかえて今や近代的モダン校舎となっているのを見て、時の流れを感じます。私も78才を過ぎ今だ現役でプロダクションをやっていますが、本年をもって引退です。

●川崎時實(演劇学科37年度卒)

卒業以来ずっと日本舞踊の世界に居ます。国際交流で色々な国へ行ったり、ボランティアで高齢者を教えたりして、師籍53年目を迎えました。定年の無い仕事なので、これからも体につけて後継者養生や皆に喜こびを発信していきたいと思っています。(芸名 坂東登喜美、坂東流幹部師範)

●出野徹之(演劇学科41年度卒)

関西民放クラブの監事として、会員の皆様のお世話係をしています。関西テレビ社友会副会長として、会の運営を行っています。私が常務理事兼事務局長として在籍した、日本センチュリー交響楽団(飯森範親首席指揮者)が10月19日、サントリーホールで演奏会を行います。皆様是非お聴きになって下さい。

●森平猛(演劇学科49年度卒)

一昨年定年退職し、現在グループ会社(神奈川県)にてあいかわらず舞台照明の仕事を現役としてやっています。イヤ、やらせていただいております。

ます!!日芸卒業後、ひとすじ舞台照明をやってこれた事(今現在もですが)本当に大学に感謝!!体力が続く限りやっていくつもりです。また日芸のお手伝も数年に渡り微力ながら演劇学科にて学生に対しお世話出ていて幸せです。

●片岡一郎(演劇学科平成12年度卒)

相変わらず、活動写真弁士をやっております。近年は海外でも仕事をさせて頂いております。本年は政変激しいウクライナからも招待を受け日本文化を起点に平和に一役担えないものかと思っております。

●竹内喜一(放送学科37年度卒)

7年前に退職はしましたが、現在もラジオNIKKEIの囑託をしておりま

す。年一度半月程、家内と2人でヨーロッパの個人旅行を楽しんでおります。少なくともあと10年は続けたいと思っているのですが……。

●福島一樹(放送学科38年度卒)

放送昭和35年入学の同期会を毎年開催しています。毎回40名前後が出席しています。今年は卒業50年にあたり、記念の同期会を10月に開催する予定で準備をすすめています。

●佐野昭夫(放送学科41年度卒)

学生時代、渋谷に住んでいた友人の下宿と一緒に東京オリンピックの開会式実況中継を観ていた処、競技場上空に五輪の輪を描くというので急ぎ外へ出て見るとブルーインパルスが大きな五色の輪を残して飛び去り大変感動したのを覚えています。

再び五輪が東京で開かれる。今度はどんな試みが。

●二見和男(放送学科44年度卒)

北陸新幹線のレールも5月末に一本につながり来年の開通を控えて金沢は街をあげて歓迎の準備の真最中です。新年度のNHK朝ドラの舞台も能登に決まりました。皆さんのお越しをお待ちしています。

●井関暢二(放送学科51年度卒)

今年26年1月17日(株)テレビ和歌山を定年退職致しました。現在は地元加太春日神社(妻が宮司の為)で事務長を勤めております。先日例大祭渡御「えび祭り」があり無事終了致しました。今後もお宮を中心とした地域興しに励みます。

ふくしま江古田会総会

5月24日(土) 於：姑娘飯店

設立6年目の総会を5月24日野田学部長、綾部校友会会長それに日大校友会福島支部大越副幹事長をお招きして郡山駅前の姑娘飯店で開催しました。会員出席は16名と例年より少なめでしたが、初参加が3名おり交流を深めました。

島崎会長は挨拶の中で来春1月第1回アート展を開催することを発表し会員の協力を呼びかけ、吉田副会長が具体的な日程、作品募集要綱を説明し「我々の芸術を、ふるさと再生につなげたい」と開催への意気込みをのべました。

これに対し、野田学部長は「無理をしないで出来る範囲でやって下さい。大震災の復興に何らかの形でつないで下さい」と述べたあと「日大は2019年に創立130年を迎える。日芸も100周年が近い。今後大学改革を進め、新たな日大を生みだしていく。校

友会の皆さんの協力を願っている」と躍進日大を強調しました。

事業報告では、3月に日芸落語研究会の学生による「追出しの会」が被災地支援として初めての地方公演を郡山市で開催したこと、被災地慰問として綾部会長が率いる<影絵グ

ループあけびの会>のきずな公演が4月、いわき市と郡山市で開催されたことが報告されました。懇親会は終始和やかな雰囲気の中ですすめられました。

ふくしま江古田会
会長 島崎 恒夫



第14回福岡江古田会アート展

5月29日～6月3日

2014年5月29日～6月3日、恒例の「福岡江古田会アート展」を福岡アジア美術館にて開催いたしました。

14回目にあたる今回の参加者は29名、写真、絵画、陶芸、書など、150点以上の作品が集まり、活気にあふれた会場となりました。

今回、アート展の趣旨に賛同いただいた、戦後1期写真学科卒業の丹野章氏の写真「サーカス 1957」の展示や、石原忠夫会員(S34演劇卒)と同郷の山口県出身で日芸に在籍した女優「木暮実千代の会」の映写会などもあり、いつもに増してバラエティーに富み、楽しめる内容となりました。

700人以上を数えた来場の方々と、展示作品ついてあちこちで会話がはずんでいる風景は、いつ見ても嬉しいものです。

一年に一度、ギャラリー会場に会員が集い、おたがいの笑顔を確認できるのは、アート展あつてのことだと改めて実感しました。

また、「反省会」と称する打ち上げの飲み会では、世代をこえて忌憚のない意見交換ができたのも、同じ日芸卒の仲間ならではのこともありません。高齢化が進む福岡江古田会ですが、今年は30代の新入会員も加わり、来年に向けて気持ちを新たに

しております。

最後になりましたが、東京、大阪、九州各地などから、多数の賛同出品をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

福岡江古田会では新入会員を募集しています。入会資格は、福岡県内またはその周辺に在住の方、福岡出身で他県にお住まいの方です。

ご連絡は飛嶋慶一 Tel 090-6953-5543までお願いいたします。

アート展実行委員

西島 善和(S56 写真学科卒)



福岡江古田会総会

5月31日(土) 於：天神平和楼

福岡江古田会の平成26年度総会は去る5月31日、天神平和楼にて開かれた。挨拶にたった美野田福岡江古田会会長は、「鹿児島から2名の参加の他、数多くのお客さんがこれ今日すごい事になりました。九州江古田会構想も夢ではなくなります。」と興奮気味に語った。会員以外からの出席者が、東京、鹿児島、熊本、佐賀からの他、野田参院議員に加え飛び入り参加者を予定していたからだが、予定外のサプライもあり笑いと歓声の絶えない懇親会がはじまった。

先に行われた総会で定例の平成25年から26年度の事業と会計報告および予算案が承認された。主な活動及び事業計画では、第13、14回福岡江古田会アート展(福岡アジア美術館)開催と「なんしょーとね」会報(第36号から41号予定)の発行が報告された。続いて会則改正案で、福岡県出身者もしくは在住者とあったのを、及び福岡江古田会の趣旨目的に賛同する校友を持って組織する。と付け加

えた。これは、今年度より会員に加わった石原忠夫さんが、下関からの加入であったのと今後の対応を考えての事からで承認を得た。

懇親会では、いきなりひょっとこの面々が踊り回りながら乱入。会員もつられて踊りだす人も、一気に会場は笑いと歓声に包まれた。仕込みと思われた踊りは、たまたま隣の会合に呼ばれていた「日向ひょっとこ踊り」の面々に声をかけたところ快く応じてくれたハプニングであった。来賓ではこの会には欠かせた事がない野田藝術学部長、綾部藝術学部校友会会長が参加された。そして、全国最年少市長として名を馳せた野田国義さん(法学部卒)やパリから駆けつけた畠山奈保美さん(s61年演劇卒)はパリ江古田会設立への構想を語った。鹿児島からは城之内隆、中野順さんご両人が参加され、鹿児島江古田会再結成へ向けた意気込みを語られた。また、映画「六月燈の三姉妹」の父親役と企画担当

の西田聖志郎さん(s53年演劇卒)が舞台挨拶を翌日に控え駆けつけてくれた。

多士済々の面々総勢28人での大総会であった。

幹事長 松村 明



宮崎江古田会総会

6月7日(土) 於：杉の子

平成26年度宮崎江古田会総会は6月7日土曜日18時より、宮崎市の郷土料理店「杉の子、桃太郎の間」にて開催された。今回の総会、懇親会は毎回出席頂いている野田学部長、福岡江古田会より松村幹事長、宮崎日大園から後藤理事長、日本大学校友会から日高幹事長の4名の来賓をお招きし、会員も十数年ぶりに神川清則さん(放送44年度卒)原田耕一さん(美術46年度卒)、原田純兄さん(写真59年度卒)なども参加して宮崎支部13名 計17名の出席と沢山の校友が

集まる事となり、何より嬉しい事であった。

総会は長嶺副会長の司会で始まり、後藤会長の挨拶では機関紙「どげんしょと」の原稿依頼、福岡江古田会アート展の展覧について、事務局から平成25年度会計報告と和田昌弘さん(放送61年度卒)から会計監査報告があり満場一致で承認され懇親会へと移った。

まず、全員集合写真撮影を済ませ、米倉事務局長の司会でスタート。校歌斉唱、来賓紹介、そして野田学部

長から「近年地方からの入学者の減少、その為、学科の見直し、専門色の特徴のある改革を計り、学術的魅力づくりに努めたい」と語られた。乾杯の音頭は鬼塚寿さん(映画35年度卒)で宴が始まった。

恒例の3分間スピーチで特に印象的であったのは高鍋より参加の原田純兄さんで「自宅写真館が漏電で全焼したが、人生観が変わり今、何も怖くないと、そして新しくエンターテイメントを持たせた写真館建設」の抱負を元気よく前向きに



語っていた。

ビンゴゲームでは今回想定外に景品が集まり、おかげで大盛り上がり、最後に樺山博詩さん(文芸 平成16年度卒)が万歳三唱で締めて二次会へと移動し、親睦をより深めて15回目の宮崎江古田会は終了した。

宮崎江古田会
会長 後藤 欣久

山形江古田会総会

6月14日(土) 於：山形グランドホテル

藝術学部校友会山形県支部(山形江古田会)の平成26年度総会が、山形グランドホテルで開催されました。

来賓として、野田慶人藝術学部学部長、綾部東洋子藝術学部校友会会長、伊藤剛日本大学校友会山形県支部支部長、日本大学山形高等学校からは江口善紀教頭、佐々木敦経理事長、同校前経理長の庄司晃国際関係学部経理長の方々をお招きしました。会員15名の参加と、今年も卒業生父母の参加があり、賑やかに開会しました。来賓祝辞と紹介に続き、今年は、13年振りに第3回「山形芸術文化江古田賞」の授与があり、横倉晋也に野田学部長より贈呈されました。次に、会計決算報告と監査報告があり承認された後、役員改選に入りました。支部長の横倉晋也(美術・昭和52年度卒)、幹事長の須藤一之(放送・平成2年度卒)の再任を始め、幹事、監事が原案通り承認されました。総会は、例年通り迅速に閉会しました。

引き続き、同会場で皆さんお待ちかねの懇親会が開会しました。日本大学校歌斉唱から始まりました。来

賓祝辞に続き乾杯の後、懇親に入りまりました。今年は、平成22年度卒業会員の参加があり、「日藝」のつながりがより強く感じられ、会場は「江古田」の街になりました。後半になり恒例の会員近況報告、1分で終わらない「1分間スピーチ」の開始です。しかし今年も又、司会の井澤聡(放送・昭和62年度卒)幹事の進行力により、ちょうど良い時間に収まりました。

平成年度卒業の会員参加も増えて、楽しく、明るく、元気よく、会は進行しました。時間の速さを感じながら、須藤一之(放送・平成2年度卒)幹事長の「山形花笠締め」で中締め閉会となり、ほとんどの参加者が二次会へと進みました。そして三次会へと、山形の夜は更けてゆきました。

支部長
横倉 晋也(美術・昭和52年度卒)



平成26年度の宮城江古田会総会は、6月21日(土)仙台市の「新萬彩」にて、綾部東洋子校友会会長、國分一彦岩手江古田会会長、中沢幸男校友会宮城県支部副支部長をお招きして開催されました。

今年の総会には新メンバーが3名参加し、総勢16名のにぎやかな総会となりました。総会では、来賓祝辞と今回初めて参加した竹野博思さん(S58年度卒・文芸)、上遠野(かど)修さん(S62年度卒・デザイン)、高橋咲千子さん(H21年度・音楽)の紹介がありました。この後、平成25年度の活動報告・会計報告、26年度の活動計画・予算が承認されました。続いて役員の改選が行われ、4期8年務められた塚崎隆夫会長(S43年度卒・写真)が体調の理由で会長を退き、後

任に桑折洋一事務局長(S55年度卒・放送)が就きました。また桑折事務局長の後任は酒井健樹副会長(S52年度卒・放送)となりました。塚崎会長は積極的に校友会の活動を続けられていて信望も厚く、大変惜しまれての交代でした。

懇親会では全員から一言ずつスピーチがありましたが、今回お招きした中沢幸男校友会宮城県支部副支部長は、レコード会社に勤務、また歌手としてレコードを出したこともある経歴の持ち主で、お話も面白く大変楽しい会になりました。

最近ではプライバシーの問題から、在校生や卒業生の名簿がありません。このため、新たな会員を直接募集できないのが実情です。このような中で、今回新たに3人の方が自ら参

加されたことは大変喜ばしく、会の新たな活性化につながるものと思います。校友会は世代を超えた異業種交流の場でもあります。この校友会報を読んでいる“あなた”ぜひご連絡ください。そして一緒にさらに楽しい会にしていきたいと思います。

宮城江古田会
酒井 健樹



佐賀江古田会総会

7月4日(金) 於:旅館あけぼの

第13回の佐賀江古田祭り(佐賀江古田会総会)を、7月4日(金)、佐賀市の旅館あけぼので行いました。

総会には、野田学部長、綾部校友会会長、熊本江古田会の奥村会長、福岡江古田会の岩永さんと山田さんの出席をいただき、野田学部長からは、今後の学部の在り方・展望について、綾

部会長からは、今後も活発な活動をと叱咤激励を受けました。佐賀の会員が7名しか参加できず寂しい総会となり恐縮しましたが、来賓の皆様方から、「参加者数は関係ない。佐賀に来れば、楽しくパワーを貰える」と、励ましていただき賑やかに開催することが出来ました。

懇親会では、自称“名前ばかりの編集長”の正島さんが、念願だった会報の発行に当たっての裏話(音成会長との、編集方針の確執?等)を激白。会場の笑いを誘っていましたが、会報を読みながらお互いの近況を報告。

また、「九州江古田会」を目指し、まずは、福岡・熊本・佐賀の合同の江古田会を開けるようになればと確認しあいました。

懇親会は、恒例の校歌斉唱や万歳三唱をぶっ飛ばすほど盛り上がり、そのまま会員の原田さんのライブハウスに直行。音成会長が、何処で覚えたのか“シャンソ〜ン”を披露。「ちょっと顔出したら、失礼します」とおっしゃっていた福岡江古田会



の岩永さんと山田さんも、帰りの時間も忘れてハッスル。久しぶりの再会に暑さも吹き飛び、遅くまでお付き合いいただきました。

ということで、佐賀恒例の音成会長の「佐賀にわか」は、佐賀では披露

できませんでしたが、翌日の熊本の江古田会で、2日分たっぷりと演じられたと聞き及んでいます。

年に1回しか会えない方もいらっしゃると思いますが、元気な顔を拝見するだけでも、この会の素晴らしさを

噛みしめています。

猛暑の中、お越しいただきました皆さまに改めてお礼申し上げます。

また来年お待ちしております。

佐賀江古田会事務局
土井 洋(写49卒)

熊本江古田会総会

7月5日(土) 於：熊本交通センターホテル

29回目の熊本江古田会総会、今年も7月の第一土曜日の5日に熊本市内のホテルで開きました。前日4日、佐賀江古田会にも出席された野田学部長と綾部校友会会長も顔を見せいただきました。

毎回、来賓が多いと言われる熊本ですが、今年は十数年ぶりに顔を見せた会員もいて、16人の会員が参加しました。来賓は江古田関係が学部長、校友会会長をはじめ、佐賀の音成会長それに福岡の飛嶋事務局長、また県支部の役員や歯学部など他学部校友会の方々10人に参加いただきました。

懇親会では、野田学部長、綾部校友

会会長から学部の近況などの報告やお二人とも、あと一期、学部長、会長を続投されるという話もありました。

ところで熊本江古田会は1985年に発足し、来年、会設立30周年を迎えます。熊本江古田会では、これまで20周

年、25周年と熊本市内で企画展を開催しました。来年も秋に30周年記念展を計画しています。計画が具体化しましたら、学部、各江古田会の皆様にもご連絡致しますので、ご協力のほどよろしくおねがいします。

会長 奥村 隆志



青森江古田会総会

7月5日(土) 於：ホテル青森

平成26年度青森県支部総会は、去る7月5日青森市のホテル青森で開かれました。総会への出席者は12人、男性会員のみのやや寂しい会合となりました。

総会では来賓として芸術学部次長で学部副会長の原直久教授が挨拶に立ち、芸術学部の活動状況などを報告、発足から6年目の県支部への今後の発展を期待すると述べました。

そのあと、平成25年度の活動状況や会計報告に続いて監査報告が行わ

れ、全会一位で了承されました。

総会のあとの懇親会では、初参加の工藤浩二さん(54年放送学科卒)と能代一雄さん(48年写真学科卒)の二人の自己紹介が行われ、工藤さんは「これまで毎年会員の作品展を開いていることや、県内のOB達が今もそれぞれ活躍されていることを知って大いに刺激を受けた」と語り、これから自分も活動に参加したいと抱負をのべました。

また地元テレビ局を定年退職した

ばかりの能代一雄さんは、「写真学科の自分がカメラではなく報道記者として、30年近く勤め上げた。」と



苦労話をとつとつと語り、会員から激励を受けていました。

そのあと、水彩画家の鈴木義勝さん(50年美術学科卒)が学生時代の思い出話や絵画教室の傍ら毎年開いている自らの作品展のPRを行ったほか、タレントとして地元局のラジオ

番組の出演を終えて駆けつけた十日市秀悦さん(52年映画学科入学)が、俳優・梅宮辰夫の付き人としての苦労話や「いさばのカッチャ」誕生までの裏話などをゼスチャー交えて披露し会場を沸かせました。

今回の参加者は男性のみでやや物

足りなさがあったものの、おいしい酒を飲み交わすなどして盛り上がり、会員相互の親睦を深めました。

青森江古田会
事務局長 高坂 進

北海道江古田会総会

7月26日(土) 於：札幌 東急イン

平成26年度の北海道江古田会総会・懇親会が、7月26日(土)午後6時より、札幌 東急インにて、来賓に綾部東洋子会長、野田慶人学部長をお迎えし、盛大に開催されました。総会では、蓬田支部長の挨拶の後、牧議長のもと、氏家事務局長、斗澤会計幹事より諸案が説明され、満場一致で承認されました。

成田フォトサービスの記念写真撮影の後、岩佐副支部長の司会により、日本大学校友会札幌支部長の加藤欽也様の乾杯で、懇親会がスタート、来賓挨拶では、綾部会長より校友会の現状について。野田学部長からは、芸術学部の取り組みについて、お話をいただきました。

宴会は、5年9か月、帯広に行っていました、57年放送学科入学の、大神政敏会員が、担当し、長い間のギャップを感じさせない見事な司会で始まりました。

今年も、会員による特別出演を企画しました。46年写真学科入学の原俊彰幹事は、趣味の域を超えた見事な手品を披露し、会場を盛り立てていただきました。また、静岡県から駆けつけていただいた、47年音楽学科入学の中山芳夫幹事長は、大変珍しい、鼻笛の演奏をしていただき、その美しい音色に会場はうっとりでした。

今年も、恒例となった100円ジャンケンゲームや、福を呼ぼうと言っているスクラッチクジなども行われ、

会場は大いに盛り上がりしました。

お忙しい中、東京から駆けつけていただいた、56年放送学科入学の森中慎也さん、42年演劇学科入学の小山田茂様、函館からは、45年美術学科入学の高森耕二様、そして、札幌日本大学学園浅利剛之中学・高等学校長。ありがとうございました。

また、評価の高い、素晴らしい校歌斉唱も披露されました。

楽しい時間は、瞬間に過ぎ、札幌日本大学学園浅利徹理事長の締めにより、お開きとなりました。

また来年、元気で皆様と再会できることを祈っています。

北海道江古田会会長
蓬田 秀泰(音楽学科39年入学)



学科ニュース

写真ブロック



●第8回日藝賞を坂田栄一郎氏(昭39年度卒)が受賞されました。その記念講演会が6月10日に江古田校舎のEB-1で行われました。立見がでるほどの盛況でした。

●今年度から「写真表現研究Ⅰ(広告写真表現研究)」を開講しました。

●昨年に引き続き、特別講座・アマナプロフェッショナル講座を5月26日に開講しました。テーマは「これからのビジュアル・コミュニケー

ションに対する『スタンス』と『発想』を学ぶ」でした。

●「出て来い新人3—日本大学芸術学部写真学科気鋭学生写真展」をニコンサロンbis新宿で7月1日から7月7日に開催しました。出品者は4年次生の池田莉子、海野萌、大橋絵莉花、奥平ななえ、杉山慧、砂土居孝文、高橋真実、東晶穂、彦根藍矢です。

●7月4日に江古田校舎で写真家、新津保建秀氏により特別講座が行われました。写真編集の実際と撮影現場について講義いただきました。

●昨年に引き続き「写真機材展」を江古田校舎東棟2階の学生ホールで7月16日、17日に開催しました。今回は、メーカー14社の参加がありました。

●高校生のためのワークショップを7月26日、27日に開催しました。

●写真甲子園および2014年東川町国際写真フェスティバル(8月5日から10日)をバックアップしました。

●写真学科で長く教鞭を執られ、元写真学科主任で、日本大学名誉教授の石井鐵太先生が5月17日に84歳でご逝去されました。

●<写真学科創立75周年記念写真展「卒業生によるオリジナルプリント」>を芸術資料館で10月28日~12月5日に開催します。詳細は芸術学部ホームページをご覧ください。ご来校をお待ちしております。

映画ブロック



●平成26年度オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは平成26年6月29日に江古田校舎で行なわれました。映画学科では、PRビデオの上映、映画学科施設見学ツアー、映像表現・理論コースの説明会、卒

業制作や映画演出Ⅲ／技術Ⅲの実習作品上映会、進学相談が行われ、多くの受験生が来場しました。

●「フォーカスイン '2014」

平成25年度卒業制作、映画演出Ⅲ／映画技術Ⅲによる作品上映会「フォーカスイン '2014」が、平成26年6月23日~6月29日までの7日間、江古田校舎東棟EB-2教室で行なわれました。70作品が上映され、600名余りが来場し盛況のうちに幕を閉じました。

●映画学科のホームページが新しくなりました。

今年4月から、映画学科のホームページが新しくなりました。新しい情報が次々更新されていますので、ぜひご覧ください。

URLは <http://nuart-cinema.info/> です。

また、学部のHPより、映画学科→特設サイトで、ご覧いただけます。

美術ブロック



■第6回柳瀬荘アート・教育プロジェクト(学部長指定研究)

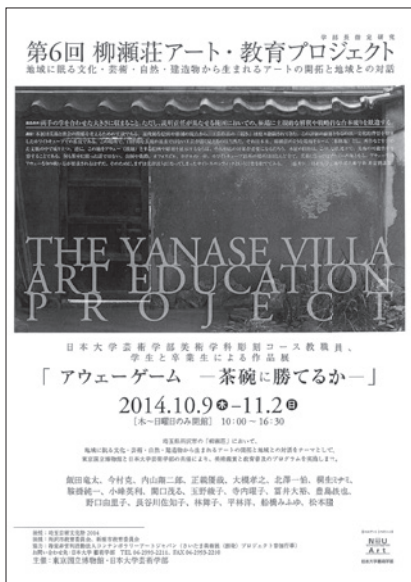
会場:東京国立博物館 柳瀬荘
埼玉県所沢市大字坂の下437
会期:2014年10月9日~11月2日
〈木~日曜日のみ開館〉
10:00~16:30

出品作家:飯田竜太、今村克、内山翔二郎、正親優哉、大槻孝之、北澤一伯、桐生ミナミ、鞍掛純一、小峰英利、関

口茂る、玉野綾子、寺内曜子、富井大裕、豊島鉄也、野口由里子、長谷川佐知子、林舞子、平林洋、船橋みふゆ、松本隆(美術学科教員、在学生、卒業生)会期中のイベント

10月12日11:00~15:00のうち4回
柳瀬荘茶会

10月19日13:00~ワークショップ



「柳瀬荘竹取物語」

10月26日14:00～講演会

「松永耳庵—柳瀬荘の時代」、
アーティストトーク

15:30～パフォーマンス

「横笛・彫刻・ダンス」

* イベントは事前申し込み制

所沢庶務課FAX[04-2993-2210]
にてご応

■日本大学芸術学部美術学科 大学院展

内容:美術学科大学院有志

(絵画、彫刻)による作品展

会期:11月15日～26日

11:00～19:00(日曜休廊)

会場:ターナーギャラリー
(1階、3階)

出品作家:安倍睦、今村克、大矢
享、岡ノ谷美依、奥谷萌、菊池彩、
桐生ミナミ、豊島鉄也、松谷崇
希、渡部仁美

■メキシコ版画展

内容:メキシコの版画工房「ラ セイ
バ グラフィカ」で制作した版
画作品展

会場:芸術学部A&Dギャラリー

会期:10月7日～11月3日

■鷹尾俊一展

内容:教員による彫刻展

会場:芸術学部ギャラリー棟、
A&Dギャラリー

会期:11月6日～22日

■北野生涯教育彫刻奨学生作品展

内容:奨学生による彫刻展

会場:芸術学部A&Dギャラリー、
ギャラリー棟、芸術資料館

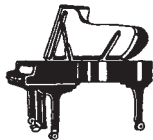
会期:12月9日～20日

■全国大学版画展

内容:日本全国の美術大学、教育系大
学、専門学校の学生による版
画展に版画専攻の学生が出品

会場:町田市立国際版画美術館
会期:12月6日～21日(月曜休館)

音楽ブロック



平成26年度音楽学科主催演奏会
は、次の通りです。いずれも入場無料
ですので、お気軽にご来場ください。

●第113回定期演奏会

於:練馬文化センター小ホール
10月15日(水)

17時30分開場／18時開演

●第114回定期演奏会

於:練馬文化センター小ホール
10月20日(月)

18時開場／18時半開演

●第45回オペラ公演

於:練馬文化センター小ホール
11月5日(水)

18時開場／18時30分開演予定

<演奏曲目>

モーツァルト:歌劇「魔笛」(ハイライト)

○指揮 江上孝則

○演出 岩田達宗

●第42回ファカルティコンサート

於:芸術学部音楽小ホール

11月8日(土)

17時半開場／18時開演予定

音楽学科の教員による演奏会です。

●第50回室内楽の夕べ

於:練馬文化センター小ホール

11月13日(木)

17時30分開場／18時開演予定

9月末に行われる室内楽学内演奏会
において、優秀であった団体による
演奏会です。

●第26回ウインドオーケストラ定 期演奏会

於:練馬文化センター大ホール
11月18日(火)

18時開場／18時30分開演

<演奏曲目>

F. エリクソン:序曲「祝典」

A. リード:交響曲第3番

R. アディンセル:ワルシャワ協奏曲
ピアノ独奏／田代幸弘

編曲／稲川榮一

R. シュトラウス:歌劇「薔薇の騎士」
組曲

編曲／稲川榮一

○指揮 稲川榮一

○演奏 日本大学芸術学部音楽学科
ウインドオーケストラ

●第43回ピアノコンサート

於:練馬文化センター小ホール
11月21日(金)

15時00分開場／15時30分開演

本学ピアノコースの学生による選抜
演奏会です。

●第115回定期演奏会

於:新宿文化センター大ホール
12月1日(月)

18時00分開場／18時30分開演

＜演奏曲目＞

モーツァルト：交響曲第31番“パリ”

モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス

ヴェルディ：スターバト・マーテル

R. シュトラウス：交響詩“死と変容”

R. シュトラウス：歌劇“ばらの騎士”

よりワルツ第1集

○指揮 矢崎彦太郎

○管弦楽 日本大学芸術学部管弦楽団

○合唱 日本大学芸術学部合唱団

●大学院修了演奏審査会[ピアノ・声楽・管楽]

於：芸術学部音楽小ホール

12月17日(水)

ピアノ：10時開演

声楽：14時開演

管楽：17時開演

●第35回新作室内楽の会

於：芸術学部音楽小ホール

12月19日(金)

開場／開演時刻未定

提出作品より選抜された曲の演奏会です。

●平成26年度大学院修士論文要旨発表会・修了演奏会

於：練馬文化センター小ホール

平成27年3月9日(月)

開場／開演時刻未定

修士論文・修了演奏審査会において優秀であった院生の論文要旨発表会・演奏会です。

●平成26年度卒業論文要旨発表会

於：東棟3階E-301教室

平成27年3月19日(木)

13時30分開場／14時開演

卒業論文が優秀であった学生による論文要旨発表会です。

●平成26年度卒業演奏会

於：練馬文化センター小ホール

平成27年3月19日(木)

17時30分開場／18:00開演

卒業演奏審査会において優秀であった学生の演奏会です。

文芸ブロック



■稲葉真弓先生逝去

文芸学科と大学院で教鞭をとられていた稲葉真弓先生が、平成26年8月30日に病気により逝去されました。謹んで哀悼の意を表し、お知らせいた

します。

■「伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」に入賞・入選!

過去最多の173万9,401句の応募があった「第25回伊藤園お〜いお茶新俳句大賞」にて、下記の文芸学科生・卒業生の作品が選ばれました。

◎佳作特別賞：副島亜樹(2年)、加藤澪(文芸学専攻1年)

◎佳作：二川智南美(卒業生)、小沼理(卒業生)、竹川祥子(卒業生)、河内智

美(2年)、佐藤園子(3年)、小河原杏里(3年)、永沼絵莉子(4年)

■木村友祐さんの新作「聖地Cs」

2009年にすばる文学賞を受賞して作家デビューした木村友祐さん(平成4年度卒)が、原発事故による居住制限区域内で被曝した牛たちを飼いつける牧場を描いた小説「聖地Cs」を新潮社から出版しました。

演劇ブロック



今年度も後半に入り演劇学科主催の後期の公演が始まります。昨年同様9公演上演致します。江古田・所沢の両校舎へぜひ足をお運びください。

公演日程は下記の通りです。

○総合実習ⅠA(演劇)

「ANIMAL FARM(ジョージ・オー

ウェルの「動物農場」)

演出：山下悟

10月9～11日

所沢校舎アートセンター・ブラックボックス

○総合実習ⅢB(洋舞)

「Dance Performance～ロンド・カノン形式による創作表現」

創舞指導：松永雅彦

10月17～18日

江古田校舎北棟中ホール

○総合実習ⅢA(演劇)

「ロンリーハート～マ格拉斯家の三姉妹～」

演出：佐藤正文

10月23～25日

江古田校舎北棟中ホール

○総合実習ⅡC(日舞)

「温古知新」

創舞指導：花柳基

11月22日 江古田校舎北棟中ホール

○総合実習ⅠB(洋舞)

「Dance Performance—シンメトリー形式による創作—」

創舞指導：加藤みや子・松永雅彦

11月28・29日

所沢校舎アートセンター・ブラックボックス

○卒業制作(演劇)

「検察側の証人」

演出指導:山田和也

12月4~6日

江古田校舎北棟中ホール

○総合実習ⅠC(日舞)

「ブレーメンの音楽隊」(仮)

創舞指導:藤間恵都子

12月6日

所沢校舎アートセンター・ブラックボックス

○卒業制作(洋舞)

「Dance Performance—モダンによる創作表現—」

創舞指導:加藤みや子

12月12・13日

江古田校舎北棟中ホール

○卒業制作(日舞)

「Episode」(仮)

創舞指導:花柳昌太郎

12月19・20日

江古田校舎北棟中ホール

※観劇にはご予約が必要です。詳しくは学科ホームページをご覧ください。

<http://www.theatre.art.nihon-u.ac.jp/>

放送ブロック



■神田京子さんが真打昇進

講談師の神田京子(平成11年度卒・本名:本田尚子)さんが、今春、真打に昇進されました。神田さんは、在学中に二代目神田山陽に入門。平成17年に二ツ目に昇進しました。

4月27日に開かれた昇進襲名披露

会見では、憧れのアナウンサー・近藤サト(放送学科特任教授)さんが司会を務め、本学映画学科卒業の毒蝮三太夫さんが祝辞を述べました。

公演情報などについては、神田京子独演会かわら版(<http://kandakyoko.tumblr.com/>)をご覧ください。

■川内有緒さんが新田次郎文学賞受賞

ノンフィクション作家の川内有緒(平成6年度卒)さんが『バウルを探して』(幻冬舎)で第33回新田次郎文学

賞を受賞されました。本作は、アジア最貧国のバングラデシュを旅して、古くからベンガル地方を流浪する人々が歌い継いできた“バウルの歌”の真実に迫った12日間の記録です。

パリにいつのまにか住み着いた日本人10人の軌跡を描いた2010年発表の作品『パリでメシを食う。』(幻冬舎)も人気の高い一冊です。そして、9月7日には新作『パリの国連で夢を食う。』(イースト・プレス)が刊行されました。

デザインブロック



●ACジャパンCM学生賞においてグランプリ、準グランプリを含め多数受賞

ACジャパン主催のCM学生賞において、コミュニケーションデザインの受講生がグランプリと準グランプリ、そして優秀賞を広告企画実務の受講生が表現技術賞と優秀賞を獲得しました。全国の大学、専門学校から多数出品される中で、5つの賞に選ばれるという快挙を成し遂げました。

●日本の戦後の名作ポスター展を開催

デザイン学科主催により、4月27日から5月20日まで江古田校舎A&Dギャラリーにおいて、亀倉雄策の「東京オリンピック」のポスターをはじめ、田中一光の「産経観世能」ポスターや中村誠の「資生堂サマーキャンペーン」ポスターなど、日本の戦後を代表する名作ポスター40点程が展示されました。その他にも、横尾忠則、石岡瑛子、原弘、山城隆一、細谷巖、永井一正などのグラフィックデザイナーのポスター総勢41点もあわせて展示されました。

●JPCAデザインアワードで学生が多数入賞

一般社団法人日本電子回路工業会

が主催するJPCA showのメインビジュアルを決めるコンペティション「JPCAデザインアワード」があり、本学科から多数の入賞者が出ました。6月4日にJPCA show2014が東京ビックサイトで開催され授賞式が行われました。

●桑原淳司教授がドイツケルンの大学で講義

海外学術交流としてデザイン学科とKöln International School of Design(KISD)では毎年双方の教員が先方の大学に出向き、ワークショップを行っています。

今年で5回目となるワークショップでは桑原淳司教授が幼少期の原風景「記憶」と題して、4月28日から5月2日までの5日間、KISDにてデザイ

ンを学ぶ学生15名に遊びマップの制作と記憶を再生表現するデザインプレゼンテーション方法の指導を行いました。

ドイツ国内外から集う学生達は幼少期の遊び体験が現在の創作活動に大きな影響を及ぼしていることを学びました。

●産学連携プロジェクトの成果が商品化へ

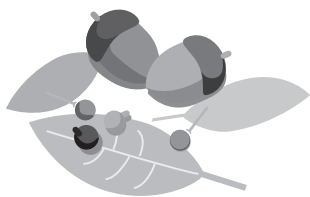
日本製紙株式会社グループと日本大学芸術学部デザイン学科との産学連携デザインプロジェクト「液体容器の新形状 機能開発」で提案された牛乳パックが8月29日から、四国乳業株式会社(本社：愛媛県東温市)より製造販売されました。同プロジェク

トは6年前(2008年)インダストリアルデザイン研究室の肥田不二夫教授の指導のもと、1年間かけて共同研究が実施され、その後、日本製紙株式会社にて様々な実験、検証を経てようやく商品化されることになりました。現行の屋根型紙パックは50年以上も形を変えていない紙容器でしたが、紙パック業界では消費者の多様な嗜好に合わせた新しい形状の容器が求められていました。同社との共同研究により、従来の屋根型紙パックの使いやすさをそのままに、屋根部の形状に曲線を組み込みました。独自の形状による高いアイキャッチ性、ユニークな非対称形状により「あけくち」側が分かりやすいことが特

長です。さらに、補助罫線を入れることで急須のように丸みを帯びた注ぎ口になり、飲料が注ぎやすくなりました。当時学生としてプロジェクトに参加した卒業生に取っても嬉しいニュースです。



(写真提供：日本製紙株式会社)



総会のご案内

(株)スタジオ・マイ▶1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン▶1985年発足。絵本、コミック、アニメほか、企画本の出版プロデューサー、また、各種イベントの企画・構成・プロデューサーなども行っている。

☎03-5999-6911

※弊社に席を置く「漫画家による私の世界展実行委員会」では11月8日より、東京両国回向院にて展示開催予定。癒されたい方、必見です!

design:スタジオ・マイ

編

集

後

記

この原稿の締切日前に東京を騒がせていたのは、都心の代々木公園や新宿御苑が閉鎖される事態を招いた、蚊によって媒介されるデング熱でした。東京は亜熱帯化しつつあるような気がしますが、皆様がお住まいの地域はいかがでしょうか。

(青木)

8つのアート1つのハート



日本大学芸術学部校友会報・第93号

2014年秋号●平成26年10月発行●

●編集人 会報編集委員会

●発行人 綾部東洋子

●広報担当 西垣仁美 鳥山正晴 笹井祐子
川上 央 青木敬士 原 一平
茅原良平 長瀬浩明

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北嶋 留美子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-43-16
成田ビル
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙

平成26年度造形芸術専攻在学中
関 貴子
『An overlap of memory.』

2015年度一般入学試験〈第1期〉・〈第2期〉日程

I 一般入学試験諸日程〈第1期〉(募集人員374名)

学科及び 募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (43) 美術 (30) 音楽 (43) 放送 (54) デザイン (40)	1月27日(火)	1月27日・28日 (火・水)のみ 窓口受付	2月3・4日(火・水) ----- 2月3・4・5日(火・水・木) ----- 一次 2月3日(火) 二次 2月6日(金) ----- 2月3・4日(火・水)	芸術学部江古田校舎	2月13日(金) 13:00 ----- 一次 2月5日(木) 14:00 二次 2月13日(金) 13:00 ----- 2月13日(金) 13:00	2月27日(金)
映画 (64) 文芸 (60) 演劇 (40)	2月3日(火)	2月3・4日 (火・水)のみ 窓口受付	2月10・11日(火・水) ----- 2月10日(火) ----- 2月10・11日(火・水)		2月19日(木) 13:00	3月5日(木)

- ※ 一般入学試験に関する〈第1期〉各期日はすべて2015年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2015年1月8日(木)、一般入学試験〈第1期〉の入学手続きは二段階手続方式が可能。
二段階方式の最終入学手続期限は2015年3月25日(水)とします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 1月26・27日、2月2・3日(いずれも月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)
- ※ 1月27・28日、2月3・4日(いずれも火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)

II 一般入学試験諸日程〈第2期〉(募集人員57名)

学科及び 募集人員	出願受付締切期日		試験期日	試験場	合格発表日時	入学手続締切期日
	郵送(必着)	窓口受付				
写真 (5) 映画 (10) 美術 (5) 音楽 (5) 文芸 (10) 演劇 (7) 放送 (12) デザイン (3)	全学科 2月24日(火)	2月24・25日 (火・水)のみ 窓口受付	3月3日(火) ----- 3月3・4日(火・水) ----- 一次 3月3日(火) 二次 3月6日(金) ----- 3月3・4日(火・水)	芸術学部江古田校舎	3月12日(木) 13:00 ----- 一次 3月5日(木) 14:00 二次 3月12日(木) 13:00 ----- 3月12日(木) 13:00	3月25日(水)

- ※ 一般入学試験に関する〈第2期〉各期日はすべて2015年のものとします。
- ※ 出願受付開始期日は2015年1月8日(木)、入学手続期限は2015年3月25日(水)とします。
一般入学試験〈第2期〉に関しては一括での手続きとします。
- ※ 放送学科以外の各学科は一次・二次の区分なく全受験生に対して行います。放送学科の二次試験は一次試験合格者のみ行います。
- ※ 2月23・24日(月・火)のみ、日本大学入試センターの窓口にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)
- ※ 2月24・25日(火・水)のみ、日本大学芸術学部江古田校舎にて出願受付を行います。
(受付時間=10:00～16:00)